

2018年3月期（第118期）第2四半期
（2017年4月1日～2017年9月30日）

芦森グループ決算説明資料

連結業績は、売上高 26,159百万円、
営業利益 394百万円、経常利益 600百万円、
親会社株主に帰属する四半期純損失 368百万円となりました。

2017. 11. 9

芦森工業株式会社

1. 2018年3月期（第118期） 第2四半期実績

2018年3月期 第2四半期は 前年同期比で増収増益

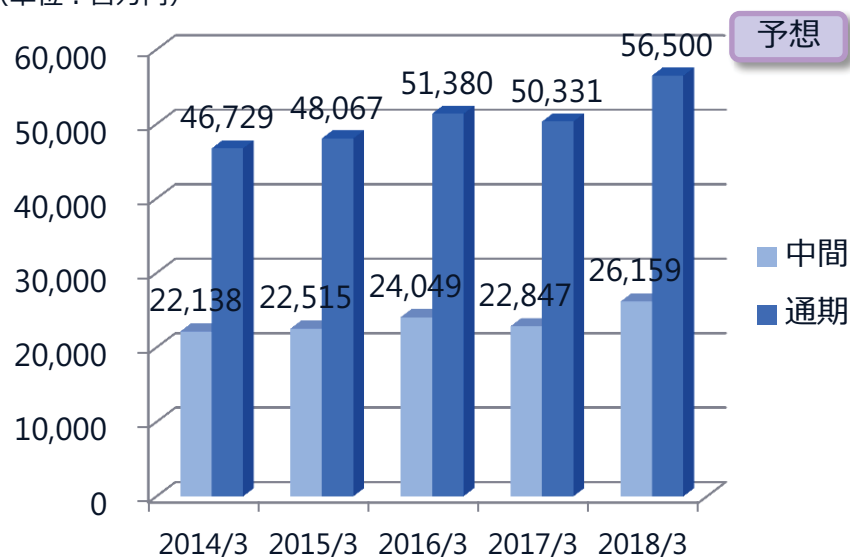
	2016年3月期 2Q累計実績 (百万円)	2017年3月期 2Q累計実績 (百万円)	2018年3月期 2Q累計実績 (百万円)	前年同期比	
				(百万円)	増減(%)
売上高	24,049	22,847	26,159	3,312	14.5%
営業利益	737	64	394	330	515.6%
(営業利益率)	3.1%	0.3%	1.5%	1.2ポイント	-
経常利益	848	▲426	600	1,026	-
特別損益	4	159	▲470	▲629	-
税金等調整前 四半期純利益	852	▲267	129	396	-
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	693	▲685	▲368	317	-

増収増益の主な要因

- ・自動車安全部品事業におけるエアバッグの好調推移や、機能製品事業におけるオールセーフ(株)の連結開始が寄与し、売上高・営業利益は増収増益となる。
- ・為替差損益が前年同期比で大幅に改善したため、経常利益も増益となる。
- ・当社本社ビルの譲渡に伴う特別損失を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は赤字となる。

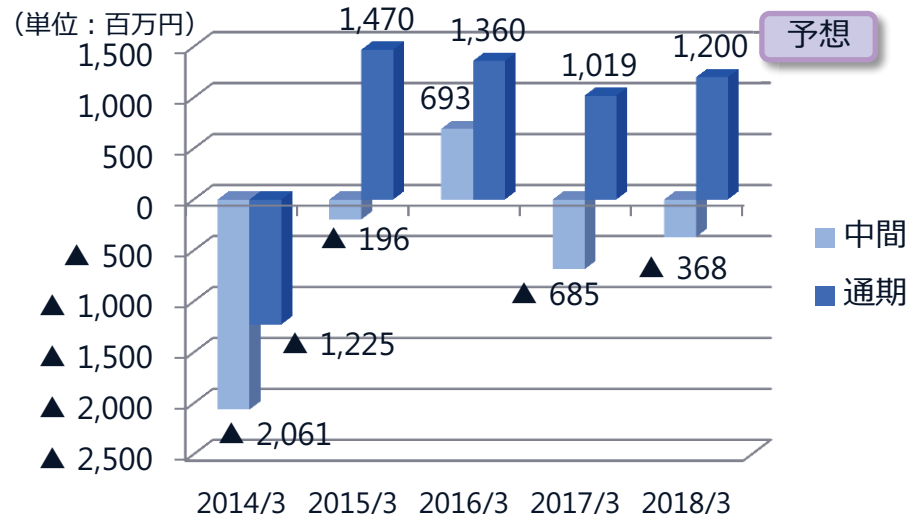
連結売上高

(単位：百万円)



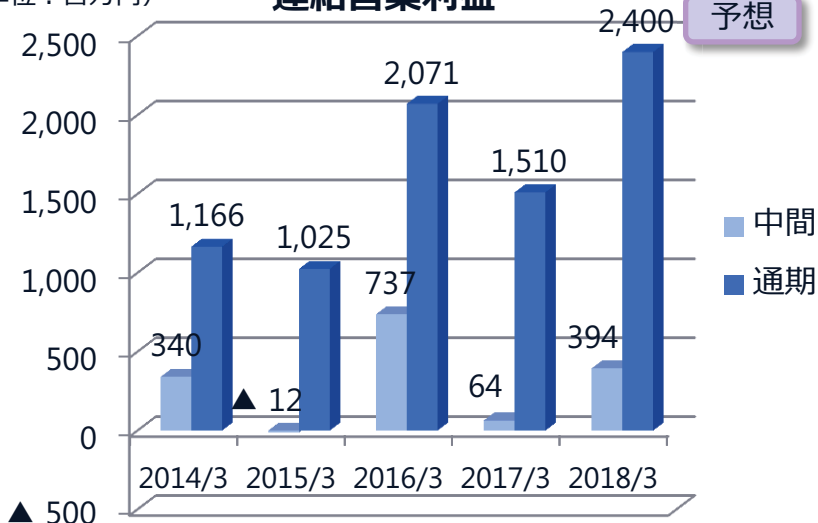
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)



連結営業利益

(単位：百万円)



- 自動車安全部品事業におけるエアバッグの好調、機能製品事業における下記2社の連結が寄与し、売上高・営業利益は増収増益となる。

オールセーフ(株)：

前第2四半期から7カ月分を連結、当期は通年寄与

(株)柴田工業：

当第3四半期末に連結開始、当期は3ヶ月分が寄与

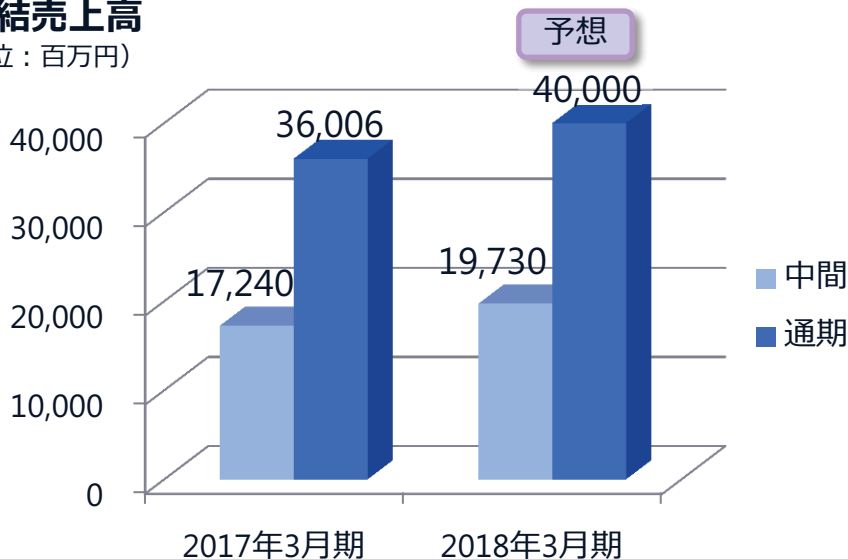
- 本社ビルの譲渡損を特別損失に計上したものの、為替差損益の改善が寄与し、親会社株主に帰属する四半期純利益は前期比改善となる。

- 当期の連結業績予想は、前回予想を据置き。
(前回予想：2017年8月10日開示)

		2017年3月期 2Q累計実績 (百万円)	2018年3月期 2Q累計実績 (百万円)	前年同期比	
				(百万円)	増減(%)
自動車 安全部品 事業	売上高	17,240	19,730	2,490	14.4%
	営業利益	383	628	245	64.0%
	(営業利益率)	2.2%	3.1%	0.9ポイント	-
機能製品 事業	売上高	5,604	6,425	821	14.6%
	営業利益	276	366	90	32.6%
	(営業利益率)	4.9%	5.7%	0.8ポイント	-
不動産収入、 本社経費他	売上高	2	3	1	1.7%
	営業利益	▲595	▲601	▲6	-
合 計	売上高	22,847	26,159	3,312	14.5%
	営業利益	64	394	330	515.6%
	(営業利益率)	0.3%	1.5%	1.2ポイント	-

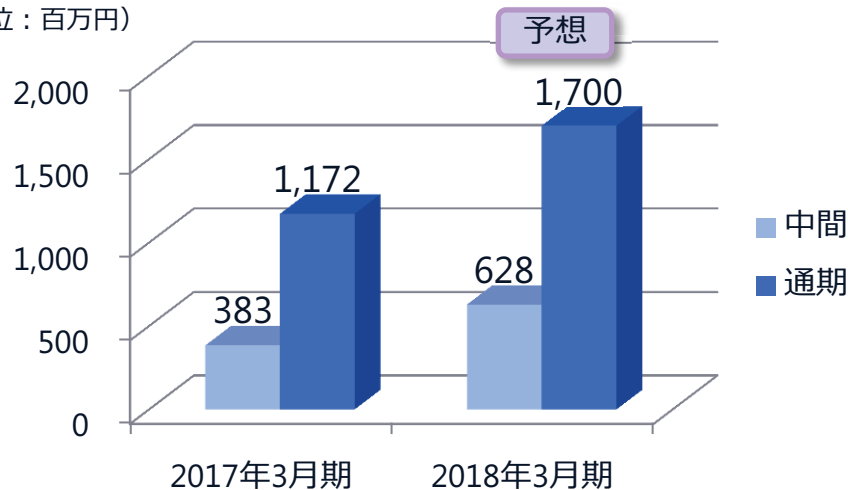
連結売上高

(単位：百万円)



連結営業利益

(単位：百万円)

2018年3月期 第2四半期累計
売上高（前年同期比 14.4%増↑）
営業利益（同比 64.0%増↑）

・シートベルト
国内において売上が減少したものの、海外において新規車種の立上げ等があり、特にタイ・インドでは販売数量が順調に増加したため、増収となった。

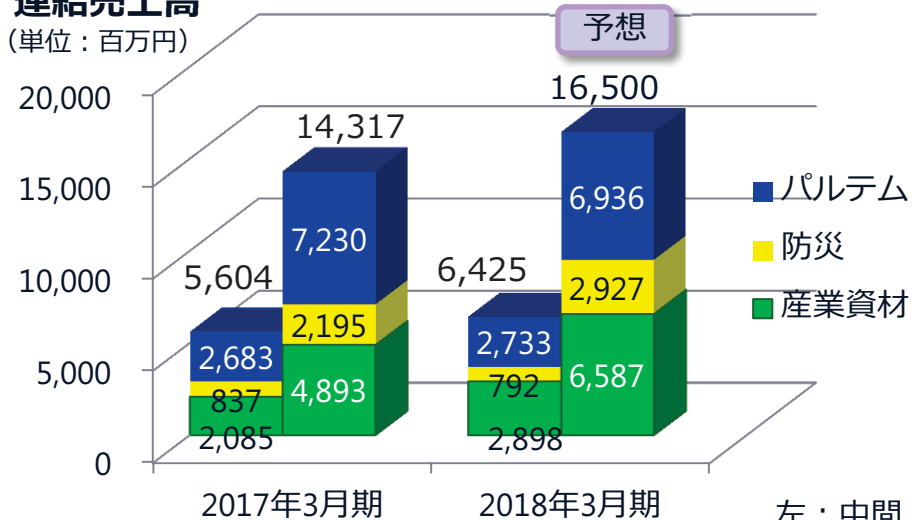
・エアバッグ
国内・海外において受注車種の販売が好調に推移したことや、韓国において現地カーメーカー向け量産が始まったことにより、前年同期比で大幅な増収となった（全体の数量は前年同期比 26.7%増）。

・内装品その他
メキシコにおいて販売が大きく伸びたものの、中国・タイでは低迷し、減収となった（全体の数量は前年同期比 4.7%減）。

・利益面
販売数量の増加に加え、前年同期比で円安水準で推移したことが業績を押し上げ、当事業全体として増益となった。

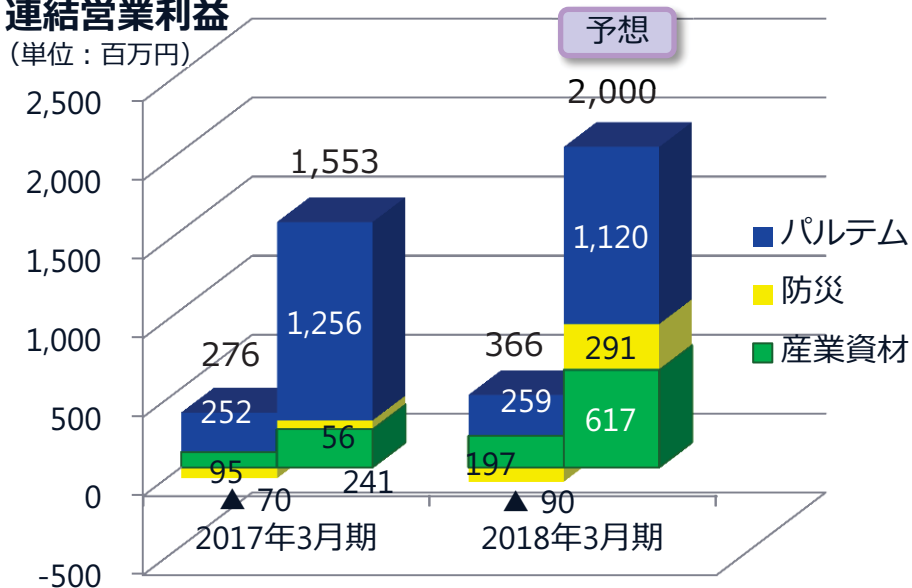
連結売上高

(単位：百万円)

左：中間
右：通期

連結営業利益

(単位：百万円)

2018年3月期 第2四半期累計
売上高（前年同期比 14.6%増↑）
営業利益（同比 32.6%増↑）

・ パルテム関連

管更生は下水道分野でSZ工法が順調に推移（受注距離は前年同期比 31.3%増）、切削可能構造材が昨年受注した大型物件の納入完了で減収となったが、合計では増収となった。

・ 防災関連

消防用ホースの年度初めの物件数が少なく（本数は前年同期比 21.0%減）、大口径送水ホースの受注も当期後半となるため、減収となった。

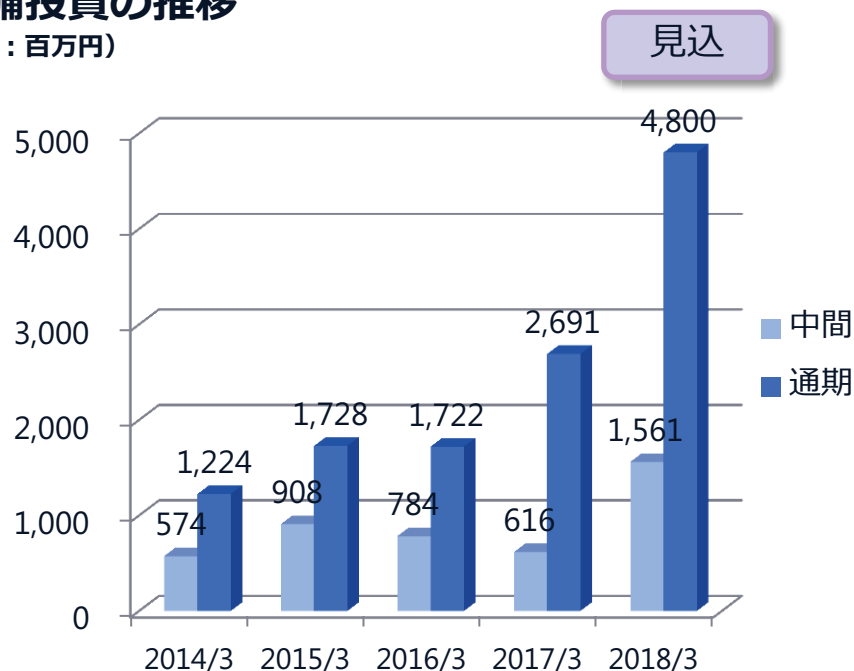
・ 産業資材関連

船舶用ロープの受注が減少したが、トラック輸送業界の省力化の流れが継続し、物流省力化システム関連製品が好調で、オールセーフ(株)との連結も寄与し、増収となった。

※パルテム(PALTEM)は、ライフライン(上下水道・ガス等)の管更生事業 Pipeline Automatic Lining system の略称。

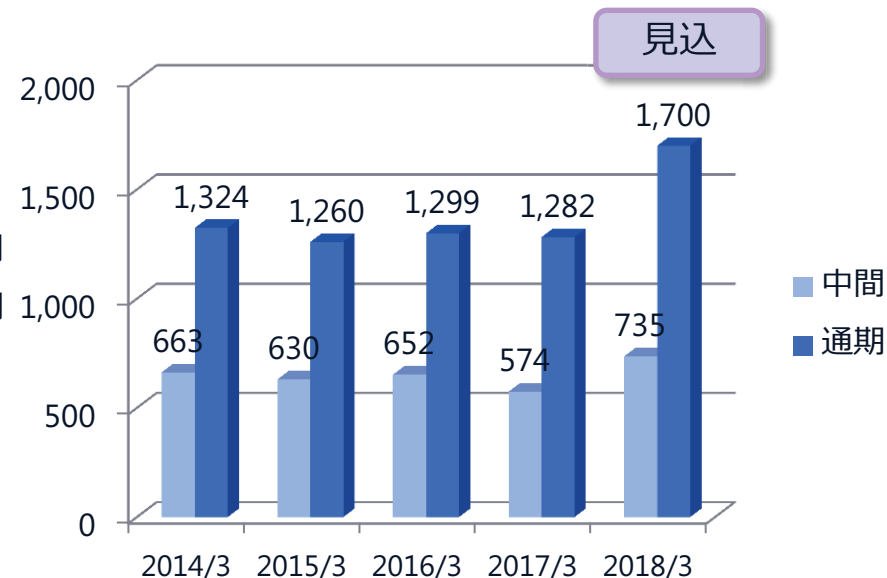
設備投資の推移

(単位：百万円)



減価償却費の推移

(単位：百万円)



<設備投資について>

当期の設備投資は合計約 48億円の見込み。

(内訳は、自動車安全部品事業 約 37億円、機能製品事業 約 9億円、その他 約 2億円)

主な投資内容は下記の通り。

- ・メキシコ現地法人第二工場建設 約 10 億円 (総額 約22億円の内、今年度投資分)
- ・芦森工業山口(株)第三工場建設 約 5 億円 (総額 約19億円の内、今年度投資分)

(単位：百万円)	2017年3月期 2Q末	2017年3月期末	2018年3月期 2Q末	前期末比
流動資産	22,610	25,230	24,450	▲780
固定資産	14,001	15,682	14,010	▲1,672
資産合計	36,612	40,913	38,460	▲2,453
有利子負債	11,156	11,562	9,311	▲2,251
その他負債	13,332	15,026	15,059	33
負債合計	24,488	26,589	24,370	▲2,219
資本金	8,388	8,388	8,388	-
資本剰余金	1,632	1,632	1,632	-
利益剰余金	2,438	4,143	3,593	▲550
自己株式	▲9	▲11	▲14	▲3
その他包括利益累計額	▲356	142	439	297
新株予約権	-	-	3	3
非支配株主持分	28	26	45	19
純資産の部合計	12,123	14,323	14,090	▲233
負債及び純資産の部合計	36,612	40,913	38,460	▲2,453
自己資本比率	33.0%	34.9%	36.5%	1.6ポイント

2018年3月期（第118期）第2四半期決算説明資料

- ・流動資産は、売上債権が前期末からの回収が進み減少。
- ・固定資産は、本社ビル譲渡による土地建物他の除却により減少。
- ・有利子負債は、本社ビル譲渡代金の収入に伴う短期借入金の返済により減少。
- ・総資産の減少により自己資本比率は改善。

	2017年3月期 2Q累計実績 (百万円)	2018年3月期 2Q累計実績 (百万円)	増減 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,702	3,083	1,381
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,224	▲23	2,201
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,643	▲2,591	▲4,234
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲253	8	262
現金及び現金同等物の増減額 (▲は減少)	868	477	▲391
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,011	3,697	▲314

- ・「営業活動によるキャッシュ・フロー」
当期純利益の増加・売上債権の減少により 前年同期比改善。
- ・「投資活動によるキャッシュ・フロー」
有形固定資産の売却により前年同期比改善。
- ・「財務活動によるキャッシュ・フロー」
短期借入金の返済により前年同期比マイナス。

2. 2018年3月期（第118期）予想

2018年3月期（第118期）は前期比増収増益の見込み

	2017年3月期 実績 (百万円)	2018年3月期 予想 (百万円)	前期比	
			(百万円)	増減(%)
売上高	50,331	56,500	6,168	12.3%
営業利益	1,510	2,400	889	58.9%
(営業利益率)	3.0%	4.2%	1.2ポイント	-
経常利益	1,362	2,300	937	68.8%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,019	1,200	181	17.7%

想定為替レート
113円/US\$・130円/€

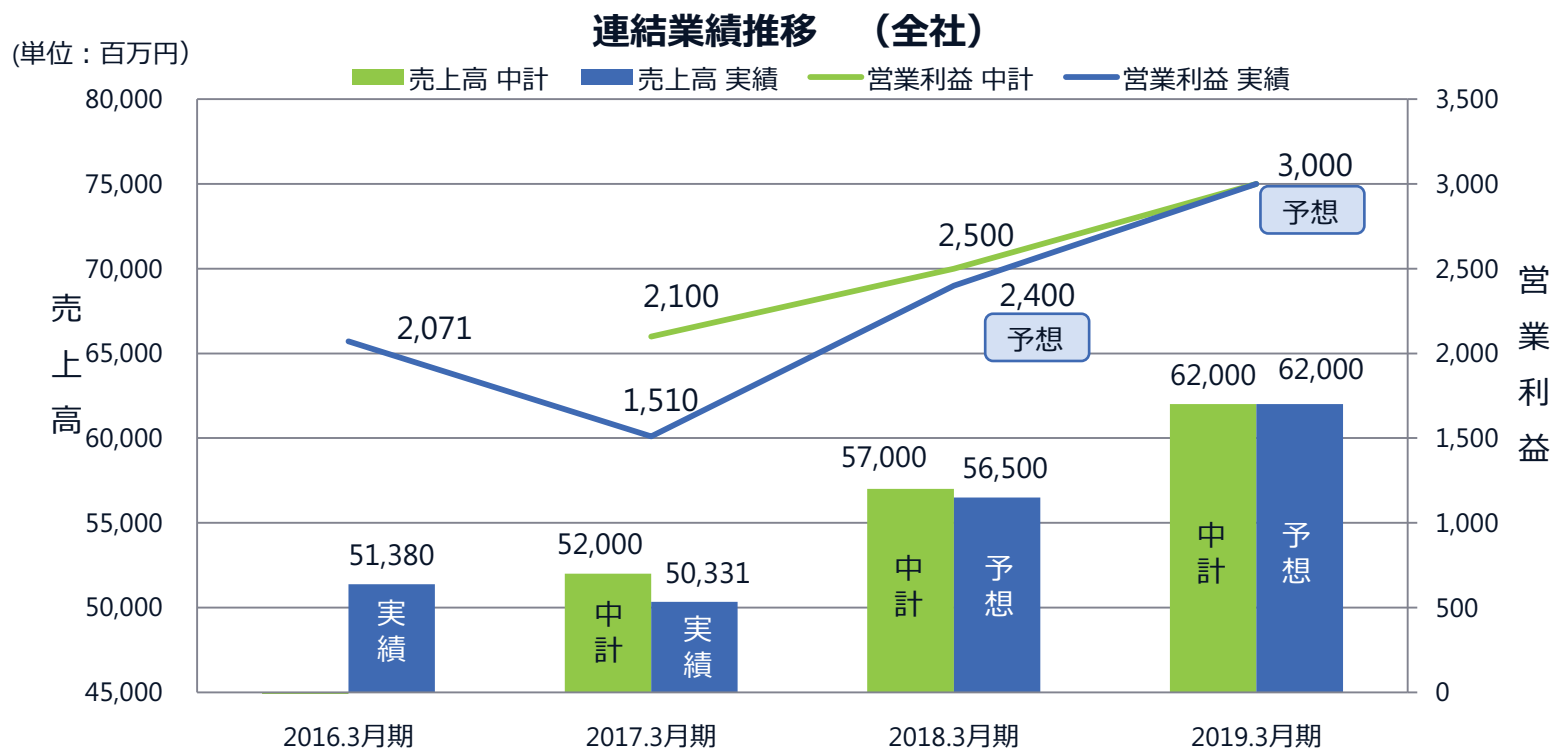
- ・各セグメントとも前期比増収増益を見込む。
- ・「2017年3月期～2019年3月期（第117期～第119期）中期経営計画」の2年目となる。初年度は中計目標を大幅に下回ったが、2年目は中計目標比微減となる見込み。

(単位：百万円)		2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	前期比	
				(百万円)	増減(%)
自動車 安全部品 事業	売上高	36,006	40,000	3,993	11.1%
	営業利益	1,172	1,700	527	45.0%
	(営業利益率)	3.3%	4.3%	1.0ポイント	-
機能製品 事業	売上高	14,317	16,500	2,182	15.2%
	営業利益	1,553	2,000	446	28.7%
	(営業利益率)	10.8%	12.1%	1.3ポイント	-
不動産収入、 本社経費他	売上高	7	5	▲1	-
	営業利益	▲1,214	(※) ▲1,300	▲86	-
合 計	売上高	50,331	56,500	6,168	12.3%
	営業利益	1,510	2,400	889	58.9%
	(営業利益率)	3.0%	4.2%	1.2ポイント	-

(※) 本社経費は前期比増加する見込み。

- ・ 研究開発の強化に伴う経費増（新規導入設備の減価償却費など）
- ・ システム再構築費用（業務効率化や将来のシステム運用コスト低減に向けた初期費用）

3. 中期経営計画の進捗状況



2017年3月期（第117期）実績

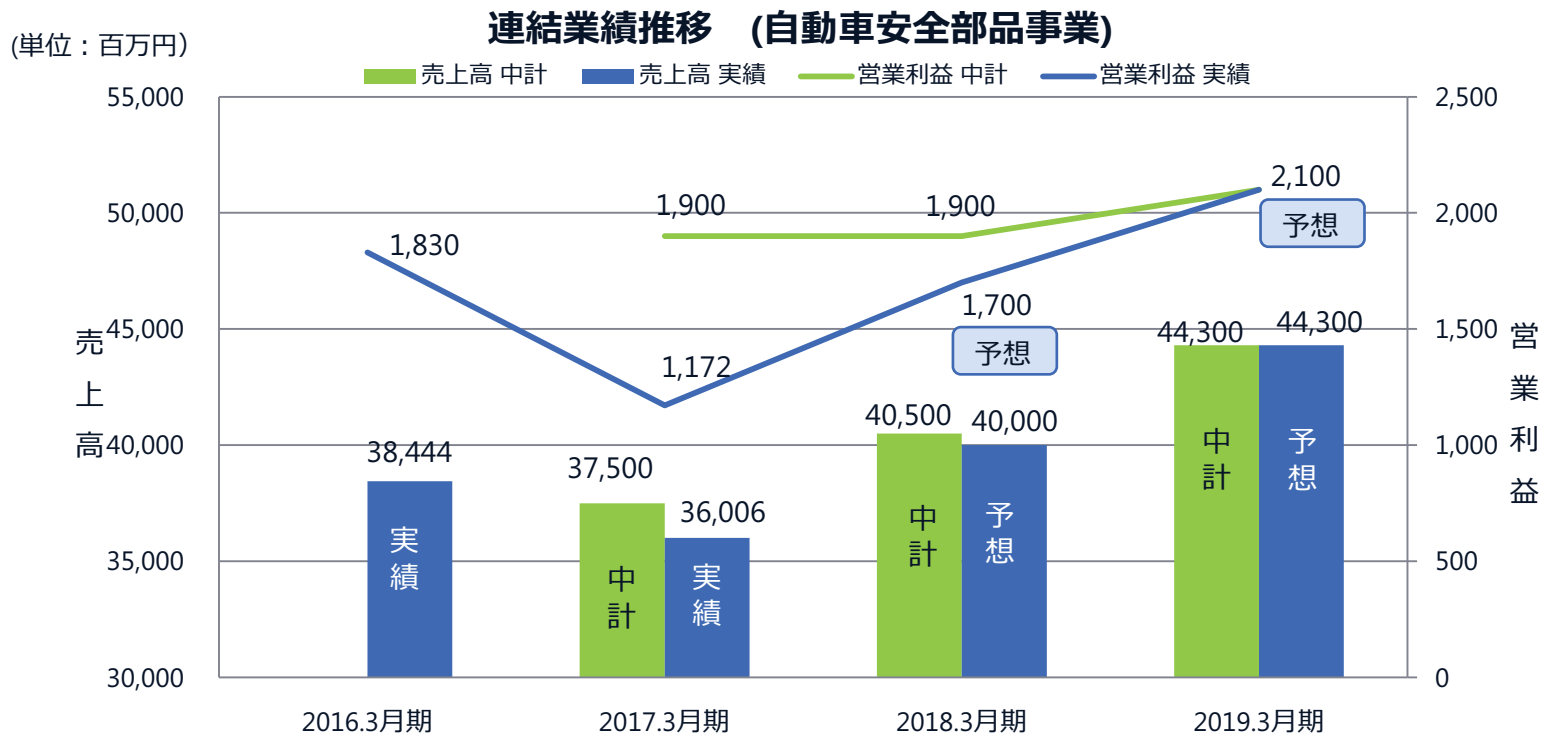
中計目標との差 売上高 ▲16億円、営業利益▲5億円

✓ 減収減益の主因は、自動車安全部品事業における受注車種の減産および円高の影響。

2018年3月期（第118期）予想

中計目標との差 売上高 ▲5億円、営業利益▲1億円

✓ 中計目標比では減収減益となるが、前期比では増収増益の見込み。



2017年3月期 (第117期) 実績

中計目標との差 売上高 ▲14億円、営業利益 ▲7億円

- ✓ 国内の受注車種の減産および円高の影響により、中計目標比で減収減益となる。

2018年3月期 (第118期) 予想

中計目標との差 売上高 ▲5億円、営業利益 ▲2億円

- ✓ 海外の受注が中計よりも減少する見込みのため、中計目標比では減収減益となる。
最終年度の目標達成に向けて、受注拡大および生産体制拡充を図っている。

中計施策の進捗状況 (自動車安全部品事業)

中計施策

1. グローバル生産販売体制の確立
2. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

1. グローバル生産販売体制

- ① 本年6月に「欧州事務所」を新設。欧州向け拡販に向け、取引先との関係強化や新規取引開拓に向けた情報収集を進める。
- ② 当社メキシコ現地法人第二工場は本年11月下旬に操業開始予定。北米向けの増産へ対応するとともに、競争力を高めて受注拡大を図る。
- ③ 当社インド現地法人は、2017年12月に新規顧客向けの量産開始が決定。収益基盤を更に強固にすべく受注活動を進める。

中計施策の進捗状況 (自動車安全部品事業)

中計施策

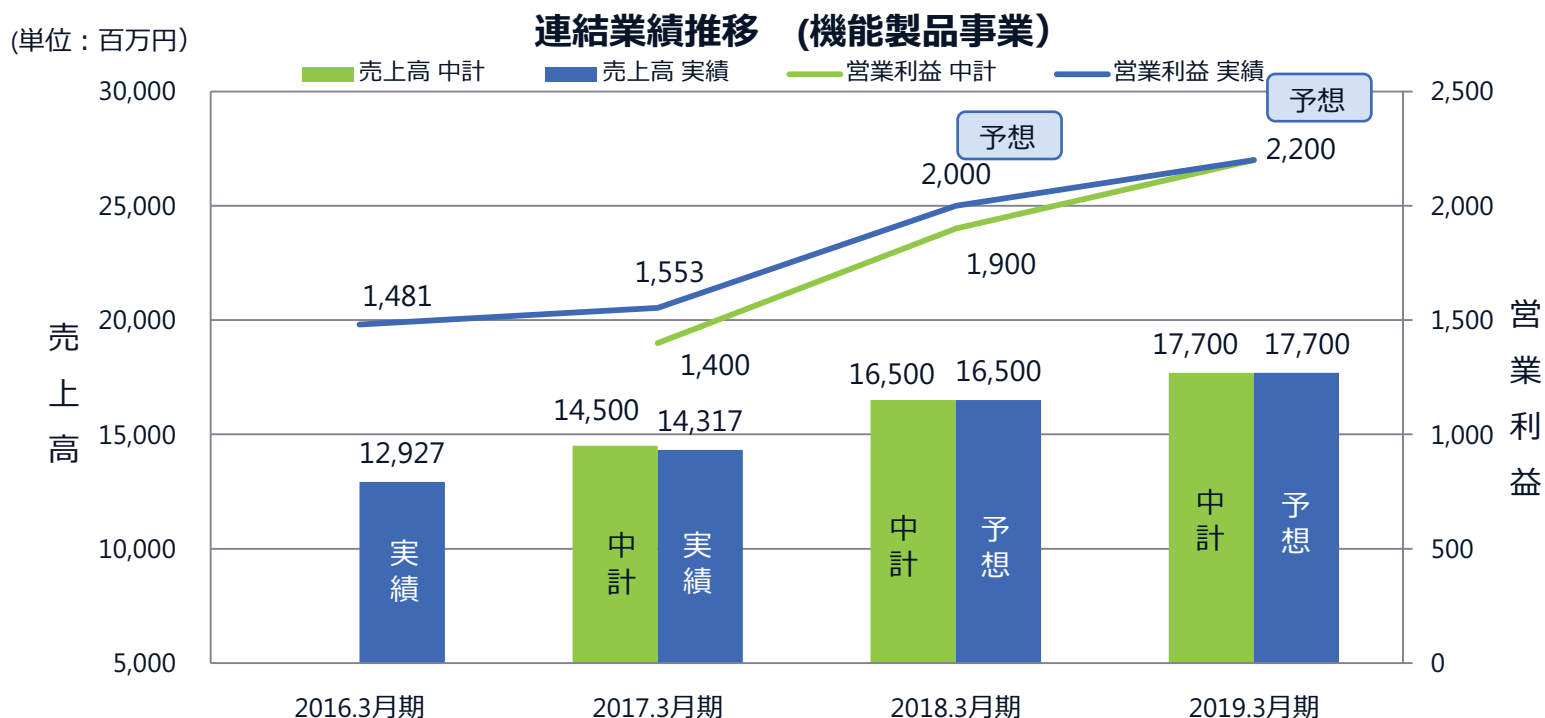
1. グローバル生産販売体制の確立
2. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

2. 次世代商品の開発強化

カーメーカーとの協働による新評価基準対応レストレイント商品を開発。

- ・ 頭部傷害値の新評価基準(BriC)に対応した斜め衝突(Oblique Impact)対応デバイス
- ・ 胸部傷害値低減デバイス



2017年3月期（第117期）実績

中計目標との差 売上高 ▲ 1.8 億円、営業利益 + 1.5 億円

- ✓ 受注好調なパルテム関連が、防災関連、産業資材関連の不振をカバーし、ほぼ中計並みとなる。

2018年3月期（第118期）予想

中計目標との差 売上高 ±0、営業利益 + 1 億円

- ✓ パルテム関連の好調継続、オールセーフ(株)の通年寄与、大口径送水用ホースの販売増等により、営業利益は中計目標を上回る見込み（前期比でも増収増益）。

中計施策

1. オールセーフ(株)との連携による収益拡大
2. 海外拡販による事業拡大
3. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

1. オールセーフ(株)との連携による収益拡大

各種取組みによりシナジー効果を追求した。

- ・ 物流関連商品（NAタイトナー・ライトスライダ等）より着手
- ・ 生産拠点の有効活用（オールセーフの東北工場・九州小城工場）
- ・ 外注品のグループ内内製化（同上）

中計施策

1. オールセーフ(株)との連携による収益拡大
2. 海外拡販による事業拡大
3. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

2. 海外拡販による事業拡大

機能製品海外戦略会議の発足による推進。

- ・ 重点地域の決定：ASEAN+周辺国
- ・ 積極的なマーケット調査、顧客訪問、展示会出展
- ・ 国内外協力体制の構築

中計施策

1. オールセーフ(株)との連携による収益拡大
2. 海外拡販による事業拡大
3. 次世代商品の開発強化

進捗状況および対策

3. 次世代商品の開発強化

【パルテム】

- ・パルテム・フローリング工法を新分野に応用展開中

【防災】

- ・災害復旧用送排水システム商品の拡充

【産業資材】

- ・高所作業用墜落阻止器具のラインナップ開発着手
- ・タイミングベルト用帆布の適用範囲拡大に取組中

4. トピックス・参考資料

今後も受注拡大が見込まれる自動車用シートベルト・エアバッグ・内装品等の生産体制増強のために、このたび芦森工業山口株式会社に、第三工場増設を決定いたしました。

工場増設の概要

- | | |
|------------|-------------------------------------|
| (1) 所在地 | 山口県山口市佐山3番地105 |
| (2) 事業内容 | 自動車用シートベルト・エアバッグ・内装品等の製造・販売 |
| (3) 総投資額 | 約19億円 |
| (4) 敷地面積 | 約24,500㎡ |
| (5) 建屋増設面積 | 約4,800㎡ |
| (6) 稼働開始 | 2018年8月
(工場増設に伴い、生産能力は従来比約2倍へ拡大) |

完成予想外観図



当社メキシコ現地法人は、欧米向け拡販による事業規模拡大を図るため、第二工場を建設いたしました。11月下旬より操業開始予定。

ASHIMORI INDUSTRIA de MEXICO, S.A. de C.V.第二工場の概要

- | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|--------------------------------------|
| (1) | 所 | 在 | 地 | メキシコ合衆国グアナファト州
(ASHIMORI INDUSTRIA de MEXICO, S.A. de C.V.敷地内) | |
| (2) | 事 | 業 | 内 | 容 | 自動車用シートベルト・エアバッグ・内装品等の製造・販売 |
| (3) | 総 | 投 | 資 | 額 | 約20百万USドル(約22億円) |
| (4) | 建 | 屋 | 面 | 積 | 約6,300㎡ |
| (5) | 稼 | 働 | 開 | 始 | 2017年11月
(工場増設に伴い、生産能力は従来比約3倍へ拡大) |

第二工場外観



当社は、株式会社柴田工業の全株式を取得し、同社を連結子会社とすることとしました。これにより、当社機能製品事業にて製造販売している上下水道を中心とする管更生材料を使用した管更生工事の体制強化を図ります。

株式会社柴田工業の概要

(1) 商	号	株式会社柴田工業
(2) 代 表 者		柴田 弘
(3) 本 社 所 在 地		東京都立川市幸町2-52-7
(4) 設 立 年 月 日		1991年10月1日
(5) 主 な 事 業 内 容		水道施設工事業および土木工事業
(6) 資 本 金		20百万円
(7) 売 上 高		700百万円（2017年5月期）

国分寺営業所外観



製品のご紹介（自動車安全部品事業）



シートベルト



電動シェード



エアバッグ



セパレーションネット

事業内容

自動車用シートベルト、エアバッグ、ステアリングホイールおよび内装品などの製造・販売

製品のご紹介（機能製品事業）



パルテム・フローリング工法
(管路更生工法)



ドルフィンエースα
(消防用ホース)



冷蔵冷凍車用間仕切り

事業内容

産業用繊維資材（合繊ロープ・帆布など）、物流省力化システム関連、および墜落阻止器具、消防用ホース、産業土木用ホースおよび防災関連資機材の製造・販売、管路更生工法「パルテム」用材料・資機材および土木資材などの製造・販売ならびに管路更生工事

新製品のご紹介（機能製品事業）

近年、強い台風などによる局所的な集中豪雨が頻繁に発生し、多くの浸水被害が全国で報じられており、この様な災害現場では、多様化する災害への対応と迅速な排水作業が求められています。ブルーラインシステムは、大規模災害時に迅速な救助支援活動を行うために開発した機動性・可搬性に優れた給排水システムです。

👉ブルーラインシステムの動画はこちら [（https://youtu.be/q5rsub1ZUIE）](https://youtu.be/q5rsub1ZUIE)

ポータブル給排水ポンプシステム MADE IN JAPAN

ブルーラインシステム

浸水・冠水対策に・・・

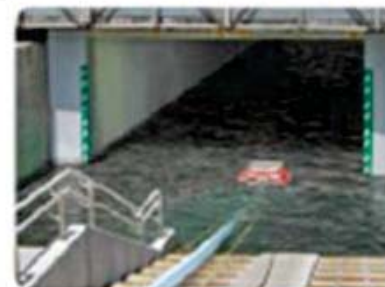


●コンパクト&軽量で高い可搬性能

●作業性が高く、給排水を実現する軽量ホース

●約4m³/分の大容量排水を可能にした高性能小型ポンプ

●給排水が必要な場面で、様々な組み合わせで柔軟に対応



<アンダーパスの冠水時に>



<溜池・用地の水抜きに>

芦森グループ 社是・M V V（Mission・Vision・Value）について

- 社是**
1. 信用を重んじ、堅実を旨とする
 2. 人の和と開かれた心で活力ある企業を築く
 3. 創意を生かし、社業を通じて社会に貢献する

Mission “安全・安心・快適”の提供で、社会に貢献する

Vision “安全・リニューアル”分野で技術をリードする
世界に通じる“Small but Excellent Company”

Value “信用”
“グッド・コミュニケーション”
“チャレンジ精神”



ASHIMORI
POWERED BY
INNOVATION

本資料中の業績予想および見込みについての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

IRに関するお問い合わせ先

芦森工業株式会社 広報・IR室

TEL : 06-6105-1680

MAIL : ir_madoguchi@ashimori.co.jp

HP : <http://www.ashimori.co.jp>